

S部門

(肢体不自由教育部門)

文字、言語、文章等の教材

教材ガイド



鹿本学園キャラクター
シカちゃん モトちゃん

平成27年度 第2回作成

東京都立鹿本学園

目次

- コミュニケーションボード
- たった200円でお手軽抽選箱
- なまえでかるた
- ひらがなスタンプ
- まとめよう
- 漢字の成り立ち
- 出来事をイメージしよう
- 書いてみよう・まとめてみよう
- 抜き出しワークシート
- 論議

コミュニケーションボード ～いまどんな気持ち？～

対象児童・生徒

簡単な日常会話を理解していて、意思表示は、うなずきや表情、拳手等でやりとりをする生徒。

S 高3 学習グループ

自立活動を主とする 教育課程



ねらい

ボードの中からイラストを1つ選び、教員に自分の今の気持ちを伝えることができる。

作り方

①学校で使用する場面がありそうなイラスト（ドロップス）をいくつか選んでA3の表にする。イラストの下には「勉強する」「つまらない」等の言葉もつける。

②表をクリアファイルに入れる。
使ってみて

教員が生徒の気持ちを確認でき、生徒も自分の気持ちが伝えることができるので、自分からボードを使おうとし

教材の使い方 (指導方法)

- ①コミュニケーションボードを提示して、「今の気持ちはどれですか」と尋ねる。
- ②生徒の中指にオレンジ色の指サックをはめる。
※手指の操作性が高くないので、生徒がどのイラストを指しているかわかりやすくするため。
- ③生徒が「つまらない」「勉強する」等のイラストを1つ選んだら、教員がそれでよいか確認をとる。
- ④イラストの使用頻度に応じて、ボードのイラストや文をかえていき改良していく。

※コミュニケーションツールの1つとして使用した。生徒の気持ちを尋ねる時だけでなく、授業前に「勉強する」のイラストを教員が指さし、気持ちを授業に向けることもできた。

たったの200円でお手軽抽選箱！

対象児童・生徒

- ・物の名前や言葉を学習している生徒
- ・簡単なゲームのルール理解ができる生徒
- ・数の学習をしている生徒
- ・感触遊びを目的とする生徒

使い方によって全生徒対象



- ・箱の中身を想像する。
- ・数当てやすごろくなどのゲームをする。
- ・感触遊びを楽しむ。

教材の使い方 (指導方法)

材料: 蓋付き段ボール箱、流し用菊割れゴム

ゲーム①中に楽器を入れて「これは何の音かな？」音当てゲーム

ゲーム②学習したい言葉を入れてすごろくゲーム

ゲーム③おもちゃを入れて、何個入っているか数当てゲーム

①



②



③



～ここがポイント！～

たったの200円(税抜)で簡単に抽選箱が作成できます。使い方はあなたのアイデア次第！

使ったあとは、箱をたたんでコンパクトに収納もできます！ぜひお試しあれ。

なまえでかるた ～ひらがなを覚えよう～

対象児童・生徒

- ・文字に興味を持ち始めた生徒
- ・ゲームが好きな生徒

S 中2 B学習グループ

知的障害を併せ有する生徒の教育課程



ねらい

- ・文字(ひらがな)に親しむ
- ・イラストをヒントに自分の名前の文字を覚える
- ・ルールのあるゲームを楽しむ

・名刺カードの裏表にイラストと文字を印刷する

・名刺サイズのカードケースに入れると…
汚れない！
折れない！！
入れ替え簡単！！！！

教材の使い方 (指導方法)

- ①イラスト面を上にしてランダムに並べる
- ②生徒の名前を一文字ずつ読み上げる
- ③該当するイラストカードを裏返す
- ④生徒と一緒に文字を読み、書かれている文字と一緒になぞる
- ⑤②～④を繰り返す
- ⑥名前の順番に並べ、生徒と一緒に読む

※覚えた文字は、イラストをなくし文字だけで取れるようにする

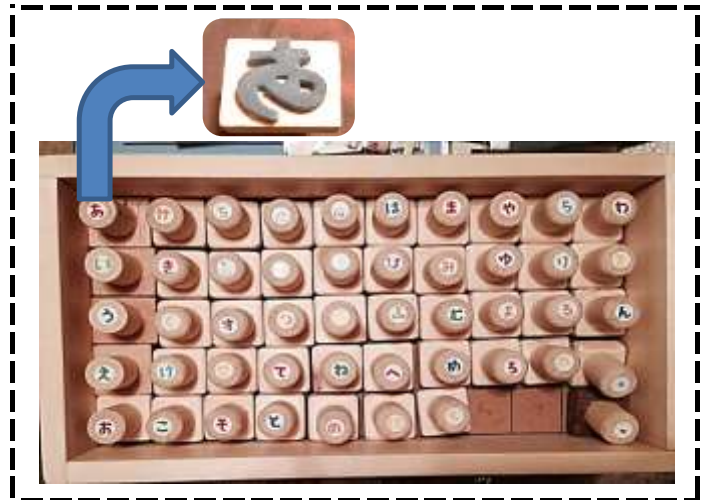
ひらがなスタンプ ～もじ ペッタン～

対象児童・生徒

文字への興味、理解はあるが、手の動きに制限があるなど、文字を書くことが難しい児童・生徒の制作活動などに活用できる。

S 小3 A学習グループ

自立活動を主とする 教育課程



ねらい

- ・ひらがなに興味、関心を持つ。
- ・写しだされた文字や形の面白さを感じて、主体的にやろうとする。

<材料>

□木片・円柱木片（文字数分）・ひながらシール・100均のひらがなマット

<作り方>

- ・□、円柱の木片を均等な大きさに切る。
- ・100均のひらがなマットを□の木片にボンドでつける。
- ・円柱をボンドで□木片につける。

教材の使い方 (指導方法)

S小3 A学習グループは、図画工作、生活単元学習の看板作りなどで活用しました!!

握りやすく、少しの力でくっきりとひらがながスタンプされるので、様々な実態の児童・生徒に活用できます!



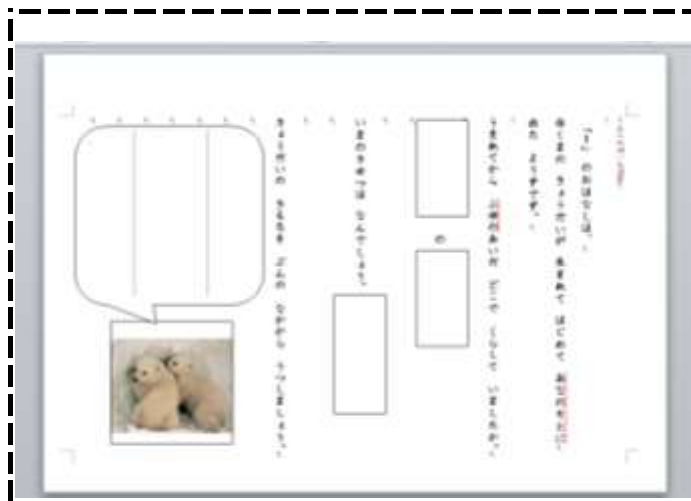
まとめよう

～国語：物語の内容理解、板書の基礎学習～

対象児童・生徒

小1の国語教科書を読み書きできる。文字を追って文章を読むことができるが、内容を読み取る力は個人差がある。また、ノートは使い始めたばかりなので、板書を書き写すと書き写すだけで時間がかかってしまう。

S 小1 C学習グループ
準ずる 教育課程



ねらい

文の内容を、穴埋めや抜き書きによってプリントにまとめることによって、読み取ってほしいこと、考えさせたいことにダイレクトに近づく。板書を書き写す負担を減らし、進んで書けるようになる。

写真やイラストは別紙で用意し、児童が自分で貼れるようにする。

プリントと同じ内容を板書する。

使ってみて・・・教科書の文章の中から求められている個所を見つけようとすることに、抵抗感が薄くなった。

学習の振り返りがしやすくなった。

教材の使い方 (指導方法)

- ・学習する文章を音読した後、一斉指導で学習する。
- ・ホワイトボードで、プリントに沿った内容を板書しながら、学習をすすめる。
- ・内容の理解がすすんだことを確認してから、プリントを配布する。
- ・筆箱、鉛筆を用意させ、プリントに記入させる。記入の際、困っているところ、質問、問題の読み直しなど個別に対応する。

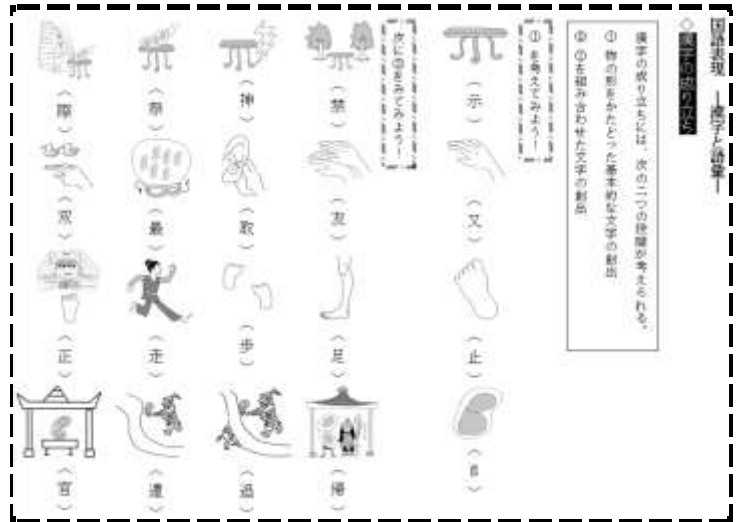
漢字と語彙

～漢字に興味や親しみをもつための工夫～

対象児童・生徒

- ・漢字を旁、部首などのパーツの組み合わせで考えず、字形(フォルム)のみでとらえている。
- ・未習得の難読漢字、熟語に読みの予想がつかず、苦手意識をもっている。

S 高1 C学習グループ
準ずる 教育課程



ねらい

- ・漢字生成の文化的歴史を学ぶことで、漢字への興味を高める。
- ・部首のはたらき、漢字の仕組みを理解する。
- ・未習得の漢字にも読みの予想がつくように

- ・漢字の成り立ちは白川静氏の文献になった。
- ・漢字のもととなった形(絵)はペンタブレットで作成した。
- ・漢字の成り立ちに興味をもったようで、「この漢字は〇〇の形からきたんでしょうか？」など予想、質問する姿が多く見られた。
- ・読めない漢字にも少しずつ予想がつけられるようになった。

教材の使い方 (指導方法)

① プリント『漢字の成り立ち』で、イラストから何の漢字が生まれたのかを予想する。正解発表(イラストから漢字の成り立ちまでをパワーポイントで作成したものを使用)とともに、漢字の背景にある歴史の解説を行い、漢字が表意文字としての表現であることを学ぶ。

② プリント『部首のはたらきと漢字の仕組み』で、漢字のほとんどが形声文字であること、形声文字は部首と旁から成り立つことを説明する。説明後は、プリント中の問題に取り組み、漢字は意味を表す意符(部首)と音を表す音符(旁)からなることを習得する。部首と旁に分けて考えることで、初めて見る漢字でも読みや意味の予想がある程度つけられることを学ぶ。

③ プリント『漢字検定2級の読みに挑戦』に取り組み、正しい答えを確認する。

出来事をイメージしてみよう ～考えながら理解する～

対象児童・生徒

準ずる教育課程の生徒を
対象としています。

S 中1 C学習グループ
教育課程



ねらい

- ・出来事を、イメージをもって理解していく。
- ・イメージをもつことで、印象に残るようにする。

・生徒が関心を示しやすいよう、手書きのものを用意した。

・生徒からの発言が増え、自分なりに出来事の流れを考えながら理解するようになった。

教材の使い方 (指導方法)

- ・本時の内容を伝える。
- ・出来事を、パネルを使用しながら説明する。
- ・発問し、生徒が次におこる出来事を自分なりに予想しながらイメージできるよう促していく。
- ・ノートにまとめる。

書いてみよう・まとめてみよう ～板書の基礎を身に付ける～

対象児童・生徒

・国語学習の4要素のうち、「読む」は学年相当の学習を進めています。「聞く」「話す」「書く」については個別の対応をしながら支援していく必要があります。文字を書くことに時間がかかるため、教科書の物語や説明文を読んでまとめることが難しい。ノートをとることの初歩段階の学習をしている。

S 小3 C学習グループ
準ずる 教育課程



ねらい

・教科書の物語や説明文の内容をしっかりと把握した上で、学習内容をノートにまとめる。
・ワークシートを利用して、板書の基礎を身に付ける。

・一単位時間で完成できる内容にする。
・学習内容を簡潔にまとめる。

書く内容が分かりやすくなり、負担感がなくなっている。自然とワークシートを書こうという気持ちになっている。「ホワイトボードに書いてあることを見ながら記述する」という板書の基礎を少しずつ身に付けている。

教材の使い方 (指導方法)

<事前準備>

- ・課題となる物語または説明文を一時間単位で学習する内容ごとに段落分けする。
- ・ワークシートは、簡潔にポイントを絞って書けるように作成する。

<実践>

- ・物語または説明文を読む。
- ・内容を読解しながら、教師は板書をする。
ポイント：①この時点ではワークシートは配布しない。
児童には文字を書かなければいけないというプレッシャーを与えず、物語または説明文を読解することにスポットをあてて授業を展開する。
②教師の板書は、ワークシートと同じ形式で書く。
- ・授業の最後にワークシートを配布する。
- ・すでに学習済みの内容が記されているので、児童は書く内容を想起しやすい。
- ・分からない時は、ホワイトボードを見れば書いてあるという状況のため、ひとりで学習が進められる。

↓
板書の基礎を身に付ける学習につながる

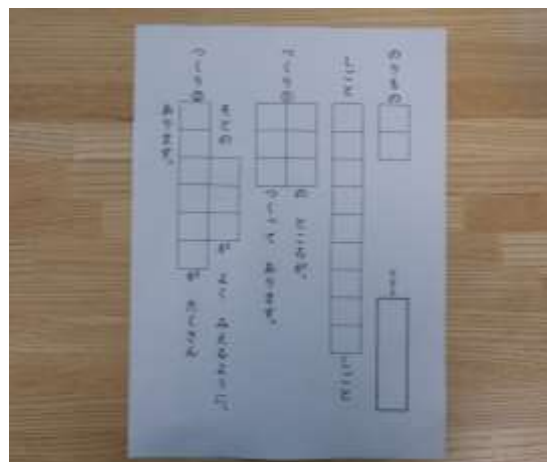
抜き出しワークシート ～説明文を正しく読み取る～

対象児童・生徒

- ・ひらがな、カタカナ、小1程度の漢字を読むことができる。
- ・簡単な文章を読むことができる。ただし、質問に対し、文章から抜き出すのではなく、雰囲気や自分の経験などから答えてしまおうとする傾向がある。

S 小2 B学習グループ

知的障害を併せ有する児童の教育課程



ねらい

- ・文章を正しく読み取る。
- ・質問に対し、正しく答える。

【説明文】

全体の構成が見通せるよう、3回繰り返す文章を選ぶ。意味がとらえやすいように、単語と単語の間にスペースを入れる分かち書きにしている。絵はカラーで、文章の意味理解を助けるようにしている。

【ワークシート】

質問は、文章を読めば必ず答えが書いてある内容にする。正しい答えを書けるよう、答えの文字数と同じ数のマスを用意してある。

教材の使い方 (指導方法)

- 1、説明文を読む。(本文全体)
- 2、1場面に注目して読む。
- 3、ワークシートの質問を読む。(何を質問されているのか、正確に把握する。)
- 4、質問の答えを文章から見つけ、線を引く。(文章から答えを見つける練習をする。)
- 5、ワークシートに答えを書く。
- 6、答え合わせをする。
- 7、わからない意味を確認したり、状況の詳しい説明等を聞きながら、理解を深める。

※これらの学習を繰り返す。

(以前は、質問に対して雰囲気や自分の経験から答えを言う児童もいたが、繰り返すことで、文章から答えを見つけようとする態度が身につく、正しく答えられるようになってきた。)

論議

～根拠に基づいた意見の表出～

対象児童・生徒

・準ずる課程の、社会科公民領域の授業として準備した。

中3 C学習グループ
準ずる 教育課程

9年社会・公民 <宿題1>
課題 < > について
・自分の意見欄 ・他者の意見欄
・自分の結論欄
・先生から一言

ねらい

- ・資料を読み取り、自分の意見をまとめる。
- ・自分の意見を根拠に基づいて説明する。
- ・相手の意見を聴き、反対の意見を尊重しながら自分の意見の正当性を主張する。

- ・論題を宿題としてだし、事前に情報を収集して自分の意見をまとめるようにした。
- ・自分と他者の意見が異なる点を意識し、自分の意見の正当性を論理的に説明するよう促した。
- ・回を重ねる度に論理的な意見を少しずつ言えるようになった。

教材の使い方 (指導方法)

- ①情報を収集し、自分の意見欄に記述する。
- ②授業で自分の意見を根拠に基づいて論理的に発言する。
- ③授業で他者の意見を聴き、他者の意見欄に記述する。
- ④自分の意見と他者の意見が異なる点を理解する。
- ⑤他者の意見の欠点を指摘し、自分の意見の利点を示す。
- ⑥教員から、その他の様々な利点・欠点意見があることを示し、もう一度④、⑤を繰り返す。
- ⑦最終的な自分の意見をまとめ、発表する。